



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, written on aged, yellowed paper. The text is arranged in several vertical columns. On the right side, there is a small, simple drawing of a vertical object, possibly a quill or a stylus. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration.





庚辰

歳旦

鶴岡連中

この内へまはるちひ
きくこころをわたりお
あつぬのまをかりて

まもるや實も初ひく花の春

北而

神日の新し福も海

杜考

まもるや實も初ひく花の春

琴枝

其引

たも又月りる富や神居

青波

ものやも色ももとの恵

井次女

みお初の新し福も海

如翠

門傳りる奥の石ももとの恵

小雀女

はるけくはるけくはるけく

里桃

そや初の新し福も海

故永

くはるけくはるけくはるけく

貫泥

おはるけくはるけくはるけく

文市

大黒も色ももとの恵

田竜

初ももとの恵

奇卷



襟や取ありせうと云ふの色

李明

旧代なりやまも福の取ひし

逸都

おきまの里根やうと福の家

喜調

うさまの紐うさやま紙

自仙

おきまやあのをあふふ世界

荷曉

年の取うはふものや初湯屋

呂角

まふと下戸にあらや縁の所を

一可

おきまの如減もや居るの碎

翠古

おきまの石の所をふふ

李水

節食や明室のまふものあ

可朝

魚飼の釣かあふふ

里昌

万里やまふまふと云ふ

之中

清うあふまふはるのま

和花

おきまの如減もや居るの碎

吳東

おきまの如減もや居るの碎

定高

おきまの如減もや居るの碎

斗昔

おきまの如減もや居るの碎

宇夕

おきまの如減もや居るの碎

荷葉

おきまの如減もや居るの碎

序白

おきまの如減もや居るの碎

尤竹

おきまの如減もや居るの碎

貞吾

おきまの如減もや居るの碎

文貫

天祥とともくやうり高

斗英

梅の香りとくしゆやふれも

尤静

福家や末のふくすく暖まり

文里

記るゝと名ひしゆもや美夷

有鄰

は連綿や比境にそけ神の柳

英理

月むの袖も居難とくゝも

李加

下戸もどけ居難のふくやふの春

李葉

ささゝこのえとえふんゑふ柳

此可

世ささるゑふりし一鏡候

一昌

あゝささくじふふとや年男

桃指

口下もとるゝふささるゝゆふ

月夕

香るや鏡ふくふふ風

仙李

ささふもりてふふふふ

宇梅

ふふふふく砕さや居難

巴水

和井もささるゝふささるゝ

野邑

ふふふく艶も付くふささるゝ

白次

ささふもりてふふふふ

可恭

香るや二日ふふふの居難

山甫

幸ふもりてふふふふ

為長

ささふもりてふふふふ

雲里

ささふもりてふふふふ

英川

ささふもりてふふふふ

芳水

素竹	其水や玉の玉と粉の香
挂路	糸初やふくぬきくはもじ
和歌	糸の玉とくわくや初り歌
友志	ふくぬきくわくや初り歌
素舟	素舟をふくやふく風南風
星仙	初言や初りて初もふくふ
如柳	二人ふくく初りて初もふく
采昌	初くく初りて初もふく
千流	初水やふく初もふく
其笑	宝川やふく初もふく
桃水	初水やふく初もふく
千翅	初水やふく初もふく

琴雨	初水やふく初もふく
梅二	初水やふく初もふく
琴枝	初水やふく初もふく
杜考	初水やふく初もふく

風草
 初水やふく初もふく
 初水やふく初もふく

初水やふく初もふく
 初水やふく初もふく

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000

風草

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000

100-200-300-400-500-600-700-800-900-1000